

▼ 牧区ジャンボツリー イルミネーション

11/13(土)~12/25(土)



平成7年から26年間にわたり、毎年多くの人に親しまれた牧商工会館前のジャンボツリー。高さ20メートルのメタセコイヤの木を、約25,000個の電球で彩ったこのツリーは、令和3年が最後の点灯となりました。

高校生が制作!



▼ 上越市PR映像コンテスト 1/10月・祝

若い世代から「ふるさと上越市」に対する愛着を深めてもらうことを目的に、高校生の皆さんから「上越市の魅力を伝える映像作品」を募集し、応募のあった7チームの作品から最優秀作品などを決定するコンテストを開催しました。新型コロナウイルス感染症対策のため、オーレンプラザで開催されたコンテストへの応募チームの出席は中止となりましたが、高校生ならではの視点で創意工夫が凝らされた力作の数々に、審査は長時間に及びました。最優秀作品は、2月にCM放送を予定しています。



審査結果はこちら



▲オーレンプラザでのコンテストの様子



しげる 柿崎区 市川 茂 推進員

中山間地域の暮らしを守り、活力の維持・向上を図るためさまざまな支援を行う「集落づくり推進員」。今回は柿崎区の市川推進員を紹介합니다。

—どんな活動をされていますか？

柿崎区内の20の集落を担当しています。春には田植えや鳥獣対策の電気柵の設置、夏には祭りの開催支援、秋には稲刈りや電気柵の撤去、冬には1人暮らしの高齢者宅の訪問などを行い、活動を通じて集落の暮らしと情景に溶け込むよう心掛けています。また、月1回「達者でなにより」という便りを発行し、四季を通じて豊かな自然と、そこに暮らす皆さんの生活感をお届けしています。

—活動の中で感じていることは？

集落の皆さんの中には、「病気を

集落づくり推進員通信

3



市ホームページ

電気柵の設置は、重労働ですが大切な仕事です



したらどうしよう」「声を掛けてくれる人がいなくなったらどうしよう」など、不安を抱えながら暮らしている人が少なくありません。あるとき「春祭りは俺一人なのでやめようと思う。どうしよう」と相談を受け、「私も参加しますからやりましょう」とお話しし、やってみたところ、集落出身者7人が集まり、「やって良かった」と喜ばれました。私が推進員として関わること、地域の伝統行事が受け継がれると実感した出来事です。

—今後の目標を教えてください

一つの「どうしよう」をしまい込むのではなく、集落の皆さんに寄り添い、そこから生まれる次の「どうしよう」を一緒に考えることで、新たな展開が出てくると気がきました。これからも、「どうしよう」に寄り添いながら活動していきます。